



シュモーさんが のこ 残してくれたもの



© へい わ たいせつ つた に ほん ご きょうざい かい
平和の大切さを伝える日本語教材をつくる会

きょうりよく まな かい
協力: NPO サダコレガシー シュモーに学ぶ会
ながさきげんぱく し りょうかん ひろしまへい わ き ねん し りょうかん
長崎原爆資料館 広島平和記念資料館

シュモーフハウス ^{ひろしま}（広島市）



© 2022 ^{へいわ} 平和の大切さを伝える日本語教材をつくる会

^{ひろしま} 広島市に「シュモーフ
ハウス」という ^{たても} 建物が
あります。 ^{ながさき} 長崎市には
「シュモーフアパート」
という市営 ^{し えい} 住宅があ
ります。

「シュモーフ」は、アメリカ人 ^{じん} のフロイド・シュ
モーさんの ^{な まえ} 名前から ^つ 付けられています。

どうしてアメリカ人 ^{じん} の
^{な まえ} 名前が ^つ 付いているのでし
ょうか。シュモーフさんと
は、 ^{だれ} 誰なののでしょうか。



?

もくじ <目次>

はじめに

1 ひろしま いえ た ねん 広島に家を建てたい（1945年）

- 1) ショック、^{げんぱく}原爆が^{ひろしま}広島に……
- 2) ^{せんそう}戦争の^{げんじつ}現実を知る（^{だいいち}第一次^せ世界^{かい}大戦 1914-1918）
- 3) アメリカに^す住む^に日本人と^{ほんじん}日系人を^{にっけいじん}援助する（^{えんじょ}第二次^{だいに}世界^じ大戦 1939-1945）

2 いえ はじ ねん 「ヒロシマの家」プロジェクトを始める（1948年）

- 1) ^{へいわ}平和のために^{なに}何かしよう！
- 2) なかなか^{ひろしま}広島に^い行けない……

3 いえ ねん 「ヒロシマの家」をつくる（1949年）

- 1) ^{ひろしまえき}広島駅で
- 2) ^{はじ}初めて^に日本^{ほん}の家^{いえ}を^た建てる
 - ① ^{ひろしまし}広島市と^{はな}話し^あ合う
 - ② ^{だいく}大工を^{やと}雇う
 - ③ ^{ざいもく}材木を^{はこ}運ぶ
 - ④ ^{ま なつ}真夏の^さ作^{ぎょう}業
- 3) シュモーさんの^{ねが}願い
 - ① 「ヒロシマの家」プロジェクト
 - ② ^{ひと}人が^つつながる
 - ③ ^{いえ}家が^{でき}きた！

4 ある つづ ねん げんざい 歩き続ける（1949年～現在）

- 1) 「シュモー^{じゅうたく}住宅」と呼ばないで！
- 2) そして、^{ながさき}長崎、^{かんこく}韓国、エジプトへ
- 3) シアトル（アメリカ）で
- 4) シアトルから
- 5) ^{ひろしま}広島でも

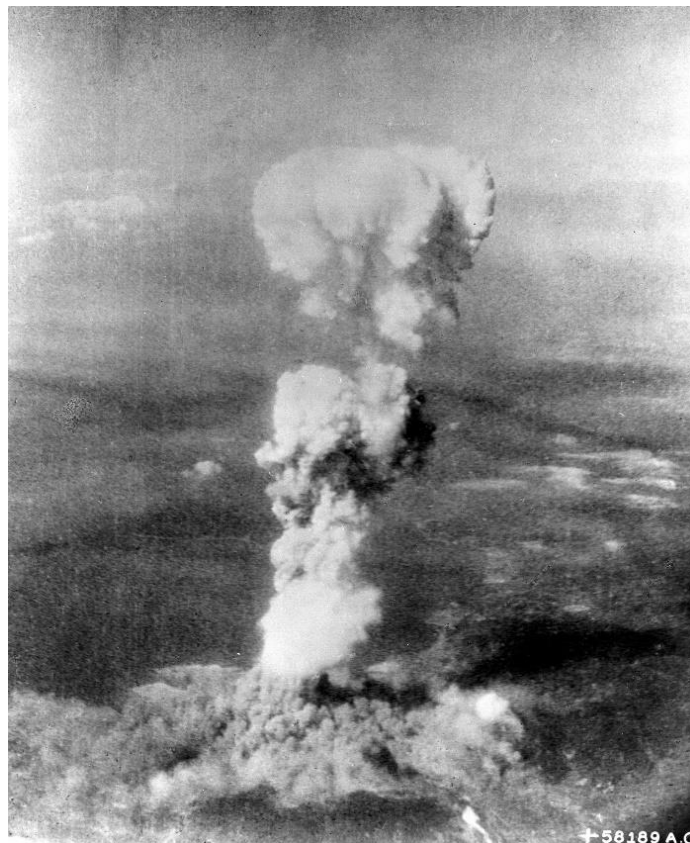
おわりに

その他 ^た参考^{さんこう}資料^{しりょう}など

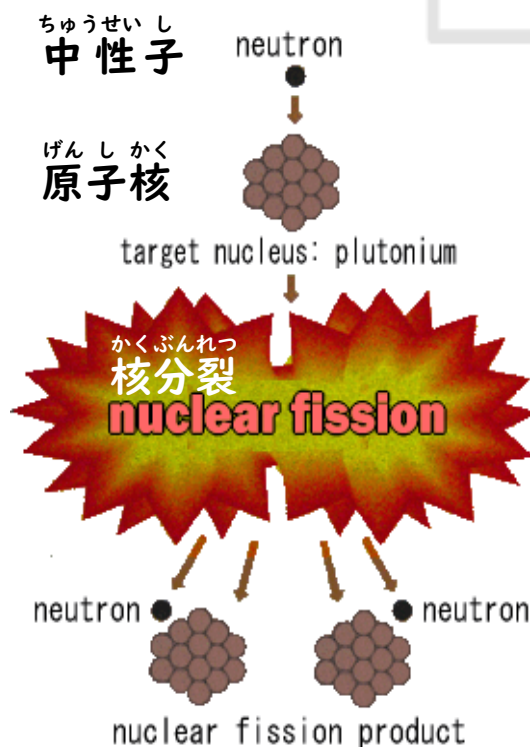
はじめに

1941年12月、日本がハワイのアメリカ軍
港やマレー半島のイギリス軍を突然攻撃しまし
た。そのため、アメリカやイギリスなどと、日本と
の間で戦争が始まりました。この戦争は4年近
く続けました。そして、1945年8月6日
アメリカ軍によって広島市に原子爆弾（原爆）が
落とされたのです。

広島市 1945年8月6日



撮影:米軍 所蔵:米国国立公文書館 提供:広島平和記念資料館 ©



『ながさきの平和』 ©

げんばく
原爆とは？

ウランやプルトニウムと
いった原子に 中性子 を 衝
突させたときに 原子核 が 核
分裂 し、中性子 が 飛び出す
と共に、巨大なエネルギー
が発生するという現象を
利用した核兵器です。

げんばく ばくはつ ひ たま ねっせん
原爆が爆発すると火の玉ができて、ものすごい熱線
と放射線が出され、熱で あたためられた空気は もの
すごい 勢いでふくらみ、はげしい爆風が起こります。
これらが複雑に関係しあって被害を大きくしました。

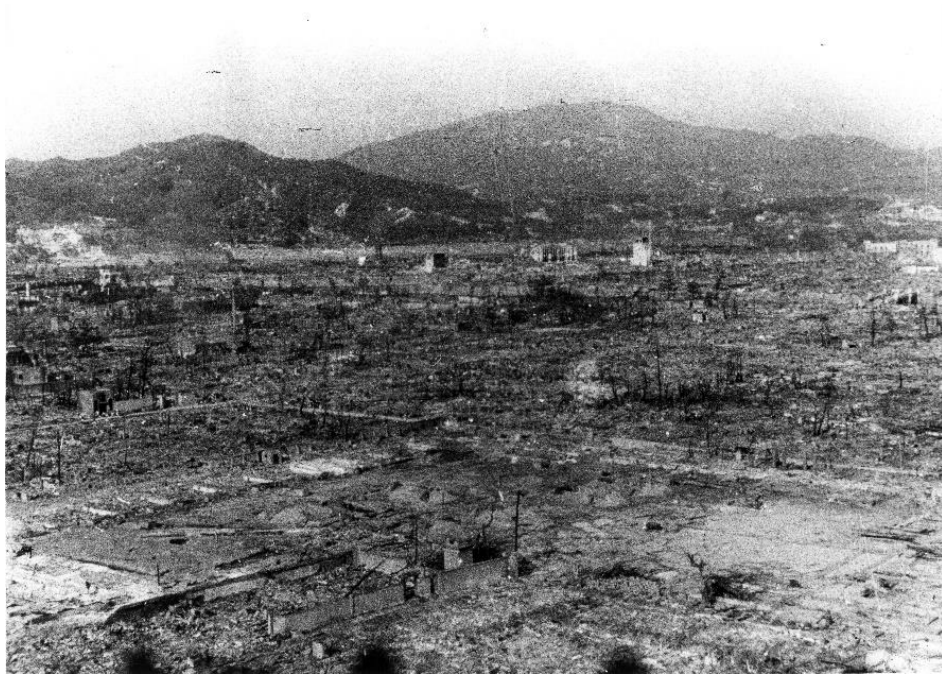
『キッズ平和ながさき』 ©

げんばく ほうしゃせん ひ がい お いま くる
原爆は放射線による被害も起こします。今も苦しん
でいる人、何年も後、病気で亡くなる人もいます。

げんばく ひろしま し ちゅうしん やく じょうくう
原爆は広島市の 中 心の約600 メートル 上 空で

ばくはつ おお いのち き ひろしま
爆発しました。多くの 命 が消えました。広島には
なに
何もなくなっていました。

ひろしま し ねん がつとお か ごろ
広島市 1945年8月10日頃



さつえい なか た さつ お し ていきょう ひろしまへいわ きねん しりょうかん
撮影：中田左都男氏 提供：広島平和記念資料館 ©

い のこ ひと す いえ
生き残った人たちは、住む家がなくなりました。

からだ こころ きず ひとびと い
体 も 心 も傷ついて、それでも、人々は生きてい
かなければなりませんでした。

ひろしま
そんな広島に、アメリカからフロイド・シュ
モーさんが来て、たくさんの人たちと仲間にな
り、一緒に家を建てたのです。

1 ひろしま いえ た 広島に家を建てたい

1) ショック、げんばく ひろしま 原爆が広島に……

フロイド・シュモーさんは、アメリカがひろしま 広島に
げんばく お 原爆を落とした という ニュースに ショックを
う 受けました。

なん ひろしま
何てことをしたんだ。 広島にも、
わたし おな く
私 たちと同じように暮らしている
いっばん し みんな
一般市民がいたはずだ……

せんそう
いくら戦争でも、こんなひどいこと
を するなんてひと ゆる 人として許されない。

シアトル市(アメリカ)にいたシュモーさんは、
この時、誰も話しかけることができないほど
怒っていました。そして、すぐにアメリカ大統領
に抗議の電報を打ちました。

シュモーさんは、その時の気持ちを、後に、次
のように書いています。

広島に原爆が落ちた時、私は何
マイルも離れた遠い場所にいた。私
の体は傷を受けなかった。でも、私
の心は深い傷を受けた。私はこの
大きな罪を償わなければならない*
と感じた。

機関紙『フェローシップ』簡約

* 罪を償わなければならない : must atone for sin

シュモーさんは、このように^{おも}思いました。

^{わたし}私 は ^{つみ}この^{あやま}罪を ^{あやま}謝 らなければなら
ない。だから、^{せんそう}戦争が^お終わって、^{にほん}日本に
^い行けるようになったら、^ま真っ^{さき}先に^{ひろしま}広島
^いに行きたい。そして、^{じん}アメリカ人の^{ひとり}一人
として、「^{ほんとう}本当に^{もう}申し^{わけ}訳なかった」と
^{あやま}謝 りたい。

でも、^{じん}アメリカ人の^{わたし}私 が^{ことば}言葉だ
けで^{あやま}謝 っても、^{わたし}私 の^き気^も持ちは^{つた}伝わ
らないだろう。それに、^{ひろしま}広島^{ひとびと}の人々
にとって、^{ことば}言葉だけでは、^{やく}役^たに立た
ない。^{わたし}私 に^{なに}何ができるだろうか。

そうだ！自分の^{じぶん}手で^て、自分の^{じぶん}お金で^{かね}、
生き残^いった人^{のこ}たちの^{ひと}ために家^{いえ}を^た建てよ
う。そうすれば、私^{わたし}の^き気持^もちが^{つた}伝わる
だろう。そして、二^に度^どとこんなことが
繰^くり返^{かえ}されないよう、世^せ界^{かい}を^{へい}平和^わにし
たい。そのために私^{わたし}は^{なん}何でもしよう。

シュモーさんは、心^{こころ}に^{かた}固^{ちか}く^{ちか}誓^{ちか}いました。

世^せ界^{かい}を^{へい}平和^わにしたい。

シュモーさんの^{つよ}強^{おも}い思^{おも}いはどこからきてい
たのでしょうか。

2) 戦争の現実を知る

だいいち じ せ かいたいせん
第一次世界大戦 1914-1918

シュモーさんが、まだ大学生の時でした。

1914年、ヨーロッパでたくさんの国々が

戦争を始めました。第一次世界大戦です。

1917年、アメリカもその戦争に加わりま

した。アメリカでは、若い男性は軍隊に入る

義務がありました。でも、シュモーさんは、

武器を持つことを断りました。

せんそう ぜったい あく ひと きず
戦争は絶対に悪だ。人を傷つけたり

ころ
殺したりしてはならない。

ねっしん 熱心なクエーカー（キリスト友会）の家庭に育
ったシュモーさんは、このように信じていました。

ぶ き も か 武器を持つ代わりに、シュモーさんは、AFSC
(American Friends Service Committee: アメリカ・
フレンズ奉仕団)の一員になって、戦争中のフラ
ンスに行きました。そこで、家をなくした人たち
のために家を建てたり、薬や食べ物を運んだり
する仕事をしました。その時、戦争がどうい
うものかを知りました。戦場では、兵隊だけでなく、
かぞ き いっぱん し じん け が し 数え切れないほどの一般市民も、怪我をし、死
んでいきます。家族を亡くし、家も食べる物も無
くなります。普通の生活が壊されてしまうのです。

シュモーさんは目の前で、人々が怖い思いをし
て、大変な経験をするのを見て、戦争が始まると
いっぱん し じん いちばん ひ がい う し 一般市民が一番被害を受けることを知りました。

そして、それを一生^{いっしょうわす}忘れることはありませんで
した

3) アメリカに住^すむ日本人^{にほんじん}と日系人^{にっけいじん}を援助^{えんじょ}する。

だい に じ せ かいたいせん
第二次世界大戦 1939-1945

1939年^{ねん}、再^{ふたた}びヨーロッパで戦争^{せんそう}が始まり
ました。第二次世界大戦^{だい に じ せ かいたいせん}です。

1941年^{ねん}、日本^{にほん}が突然^{とつぜん}ハワイの真珠湾^{しんじゅわん}を攻撃^{こうげき}
しました。そのため、アメリカと日本^{にほん}の間^{あいだ}でも
戦争^{せんそう}が始まりました。

アメリカの西海岸^{にしかがん}には、日系人^{にっけいじん}（日本^{にほん}からアメ
リカ^きに来て^す住^{ひと}んでいた人^したちやその子孫^{そん}）が、約^{やく}
12万人^{まんにん}住^すんでいました。アメリカ政府^{せいふ}は、その
日系人^{にっけいじん}12万人^{まんにん}に西海岸^{にしかがん}から出^でていくように

めいれい せい ふ にっけいじん
命令しました。アメリカ政府は、日系人はアメリカ
てき き けん かんが
力にとって敵で危険だと考えたからです。そして、
にしかがん で い ひと にっけいじん
西海岸から出て行かなかった人を日系人の
しゅうようじょ いち ど い じゅう で
収容所（一度入れられたら、自由に出ることがで
きない ところ い
所）に入れることにしました。

はたら だいがく にっけいじん
シュモーさんの働いている大学にも、日系人
きょうじゅ がくせい
の教授や学生がたくさんいました。

にっけいじん じん てき
日系人もアメリカ人だ。敵ではない。

かんが
と、シュモーさんは、考えていました。

にっけいじん おお う そだ
日系人の多くは、アメリカで生まれ育ち、ほと
ひと にほん い にほん ご はな
んどの人は日本に行ったこともなく、日本語も話
せません。シュモーさんは、にっけいじん り ゆう
日系人という理由で、
しゅうようじょ い ま ちが おも
収容所に入れるのは間違っていると思いました。

につけいじん しゅうようじょ い
日系人を収容所に入れることについて、
こうちょうかい せい ふ いっぱん ひと い けん き かい
公聴会（政府が一般の人から意見を聞く会）で、
つぎ
シュモーさんは次のように言いました。

たいせつ ひとり ひとり なに
「大切なのは、一人ひとりがどんな人か、何をし
たかです。わたし につけいじん わたし く べつ
たかです。私は、日系人を私たちと区別しよう
おも
とは思いません」

でも、アメリカ政府の せい ふ かんが か
考えは変わりませんでした。
それで、シュモーさんは、につけいじん まも
日系人を守る
ために、ある けっしん
決心をしました。

つづ
(続く)

© しゃしん お だんてんさいきん し
写真の無断転載禁止 Huwag i-repost! All rights reserved.
Dilarang mencetak ulang. অনুমতি ছাড়া এই ছবি পুনরায় মুদ্রণ নিষিদ্ধ।